

# ふれあい放水路

お知らせ

河床保護工事を進めています。

工事の進捗

放水路周辺の道路整備が進捗しています。

特集

歴史から防災を学ぶ

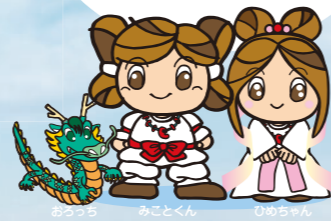
防災意識を高めよう

- 台風12号(平成23年9月3日～5日)
- 大槌七兵衛の功績より～砂混じりの地への対処～

2011 平成23年  
ふれあい放水路

vol.196

Izumo Office of River  
Chugoku Regional  
Development Bureau



## 第6回長浜国引きレガッタ

10月2日(日)、神戸川河口で恒例のレガッタ大会が開催されました。本番になると首頭をとる太鼓の音と掛け声が水面に響き渡り、各チーム一丸となってスピードを競い合いました。

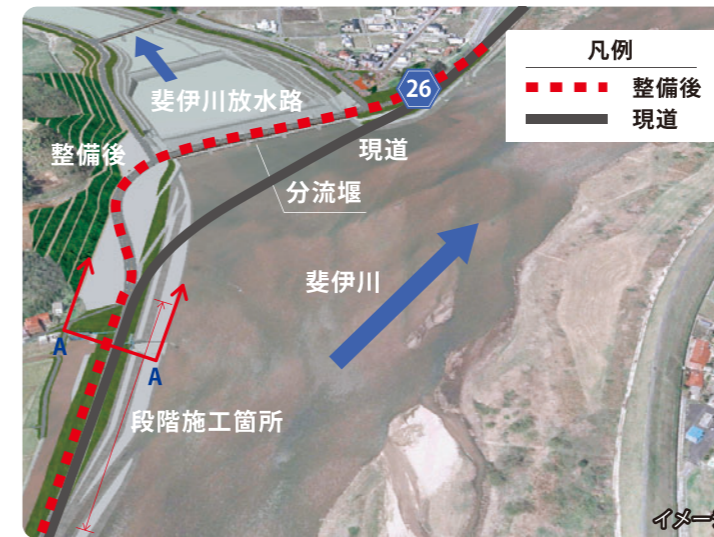
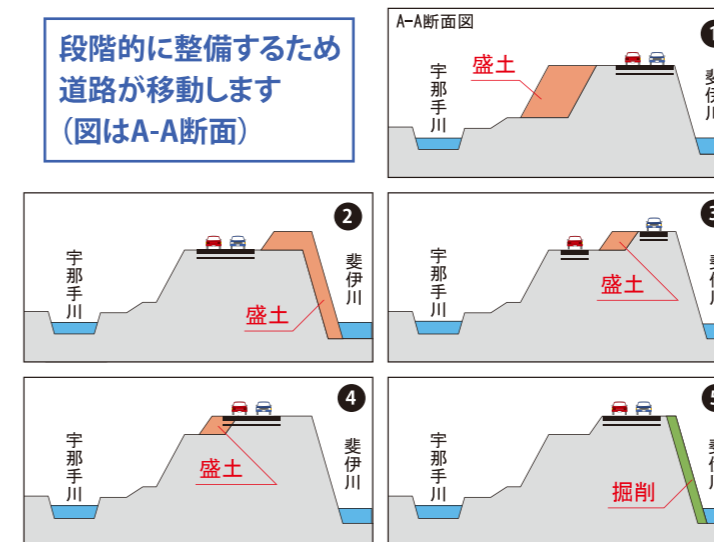
お知らせ 放水路周辺の道路整備が進捗しています。

今回は放水路周辺道路の県道26号(出雲三刀屋線)と開削部左岸農道の工事予定をお知らせします。

### 1 県道26号(出雲三刀屋線)は段階的に工事をすすめます

県道26号を最終形にするよう今年度発注いたします。県道を分流堰に向けて盛土していくための段階施工をおこないます。(下図参照)  
施工中はご迷惑をおかけしますが、皆様のご理解、ご協力をお願いします。

段階的に整備するため  
道路が移動します  
(図はA-A断面)



※最終形は、赤点線のルートへ切り替わります。

### 2 開削部左岸農道はまっすぐになります。

今年度発注工事の斐伊川放水路菅沢地区河床整備外工事において、開削部左岸農道の一部を直線化する工事を進めています。工事用車両が通過する函渠\*を設置していた関係上、道路が迂回している状況でしたが、本工事完成後は直線的に走行できます。

※函渠…道路の下を通過するためのコンクリートのトンネル



## 工事の発注情報

開削部	●斐伊川放水路半分地区掘削外工事	H23.9.30～H24.3.30 (株)中筋組	●斐伊川放水路下流部水路整備外工事	H23.11.3～H24.3.30 (株)土井豆組
	●斐伊川放水路半分地区護岸外工事	H23.9.22～H24.3.30 大福工業(株)	●斐伊川放水路大社地区堤防外工事	H23.9.8～H24.12.26 (株)今岡興産
上流部	●斐伊川放水路神戸川上流部用地整備外工事	H23.11.8～H24.3.30 大和建設(株)	●斐伊川放水路長浜地区堤防外工事	H23.10.4～H24.3.30 (株)中筋組
	●斐伊川放水路朝山地区整備外工事	H23.9.1～H.23.12.28 (株)もた田園芸		



国土交通省中国地方整備局 出雲河川事務所

〒693-0023 出雲市塩冶有原町5-1 tel(0853)21-1850 / fax(0853)22-7829

E-mail: izumo@cgr.mlit.go.jp ホームページ <http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/>

本紙に関するご意見やご要望などがございましたらお寄せください。 お問い合わせ先 放水路推進室 ふれあい放水路担当 (196号:平成23年12月発行)



お知らせ

### 斐伊川放水路開削部

# 河床保護工事を進めています。

## 工事のあらまし

斐伊川放水路開削部の河床保護工事は、工事延長L=2,425m、河床保護工約15万㎡であり、平成22年度より工事をすすめています。

昨年190号(H22年秋発行)で紹介しましたが、洪水時斐伊川から神戸川へ最大2,000㎡/s(計画流量)もの水を流す河道の整備として、放水路の河床をコンクリートで覆う施工を行っています。



工事着手時は水たまりとなり、地盤状況がつかめなかったため作業に時間を要しました。掘削など対策工をおこない、現在は右岸側の河床保護コンクリート打設が進んでいます。また今年度新たに2件の工事を発注し左岸側の河床保護工事をすすめています。



着手時



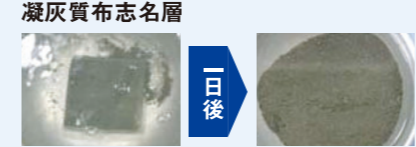
現況

菅沢橋から上流を望む

## 河床保護工事の解説

現地(開削部)の岩は風化しやすい凝灰質で形成されています。そのため、水や空気にふれ、乾湿をくりかえすと、土砂化してしまい河床形状が変わることとなります。今回、コンクリートで覆うことにより、地表面が保護され、河床形状の変形を防ぎます。

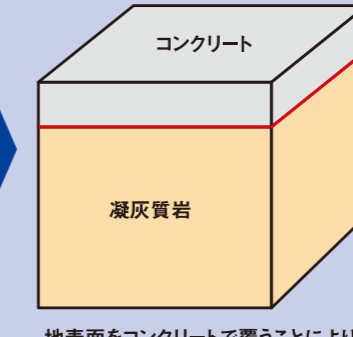
### 開削部の風化しやすい岩の状況



水浸直後 凝灰質層を水に浸したり、乾かしたりすることにより、24時間後には風化する状況がみられました。

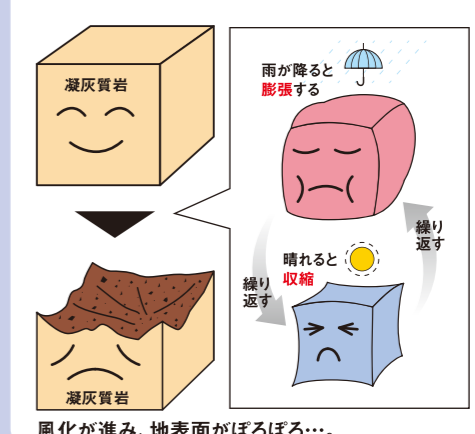
### 河床保護のイメージ

#### ○コンクリートで保護



地表面をコンクリートで覆うことにより地表面の乾湿を防止します。

#### ○保護しないとき



風化が進み、地表面がぼろぼろ…

## 斐伊川放水路開削部河床保護工事 現場代理人に伺いました。

(株)伏光組  
加納代理人



放水路開削部としては初めての工事となる河床保護工事は、平成22年8月に着工されました。加納さんは現場の安全はもとより、工事と周辺の皆様に配慮した工事をすすめておられます。「河床保護工事は生コン車両などが頻繁に出入りするためタイヤ洗浄散水設備を設けています。大型・普通車両を自動で感知し、泥を洗い流してから一般道路に出ます」とのこと。また「住宅が隣接するところには防音フェンスをつくり工事に伴う騒音を抑えています」と、周

辺の方々への細やかな配慮の一端が伺えます。工事は「雨や湧水等が低い河床部に流れると工事ができないので、施工箇所が浸水しないようにポンプで水を切り回して作業をおこなっています」ということで、5月の豪雨や9月の台風時などは浸水に悩まされたそうです。現在は82%(10月末現在)迄工事が進んでおり、頑強にできあがった河床を路上や橋から見る事ができます。



防音壁



浸水した現場



ポンプで水を切り回す状況

## 歴史から防災を学ぶ 防災意識を高めよう



### 台風12号(平成23年9月3日~5日)

大型の台風12号は強い勢力を保ったまま北上し、3日18時頃岡山県南部に上陸しました。このため記録的な雨量を観測した紀伊半島などでは甚大な被害が発生しました。鳥根県でもこの台風の影響を受け、出雲河川事務所では『警戒体制』を発令し、洪水及び中海・宍道湖の波浪に対応しました。職員を関係市町へ派遣し、松江市馬淵港付近をはじめ3箇所に排水ポンプ車を出動させ

ました。松江気象台によると安来市伯太町では376ミリ(2日午後0時10分からの24時間雨量)を観測し、奥出雲町横田でも166ミリ(2日0時30分からの24時間雨量)、観測史上最大を記録しました。また出雲市大津水位観測所では、3日14時頃に「はん濫注意水位」を超え、下流大橋川馬淵付近では浸水し、排水ポンプ車で排水をおこないました。



↑大津水位観測所(9/3 14時頃)  
→排水状況(9/3 馬淵付近)



### 大槻七兵衛の功績より~砂混じりの地への対処~

かつて西流していた斐伊川によって生まれ砂混じりの荒涼とした平原だった出雲野原。その出雲野原の開発に尽力したのが大槻七兵衛(1621~89)です。飛砂防止のために荒瀬川の開削を行いました。高瀬川の開削にあたっては、砂混じりの土地を掘り抜くという漏水対策が課題でした。そのため水路の底に

で突き固め、そして左右の側面にも大量の粘土を貼ったと言われます。実際に昭和61年の改修工事の際には30cmほどの粘土壁が確認されました。11.4kmの川底に、筵(むしろ)を4~5万枚引いたと考えられています。当時も今も、水路を確保するために地盤への対策を工夫して施すことは手間を要する重要な工程のひとつです。



高瀬川に立つ大槻七兵衛像 出雲市今市町